



鍛冶屋一筋60年

松野傳四郎さん

北黒田
(82歳)

松野傳四郎さんは大正15年生まれの82歳で、町内唯一の鍛冶屋さんです。今でも元気に活動されています。

「昔はどこにでも鍛冶屋があった。田んぼで鋏や鎌を使うけんね。『ちびたけんおして』『壊れたけんこさえて』言うて人がいっぱい来よったんよ。今は全部機械化してしまっただけ、田んぼで鋏なんか使う人がおらんかった。それで今は鍛冶屋がおらんなってしもた」

金一（カネイチ）の創業は明治10年。130年を超える歴史を持つ鍛冶屋さんです。

「家業が鍛冶屋やったけん、後継いだけや。ええ仕事やとは思わなんだな。収入が良い訳じゃないし、労力がある。ほやけど、家がずつと続けてきたもんを、守っていかんわけにはいかん」

こうして鍛冶屋暦60年。今なお、一人でがんばっています。



「20年前くらいからかな。不思議なことに、年とってしんどなところから急に鎌が売れんかったんよ。そやから今は熱心にはしてない。自分がしんどかったら休み。無理はせん」

鍛冶屋は体力と集中力を使う仕事。今はお年も召されているので、自分のペースで作業場に立っています。

「まあ、せっかくやけん包丁でも打ってみようわい」

そう言つて、素早く火をおこすと、打つ強さを足で調整しながら、カンコンカンコンとリズムカルに鉄を打っていく松野さん。まさに長年培ってきた職人技です。

今は近所の方が持つてくる刃物を研ぐことが大半の仕事だそうです。取材に伺ったときも、近所の方が来られていました。

「昔っからここぎりよ」と言うお客さんに、

「いつでもすぐ持つておいでよ」そう笑顔で返す松野さん。

これからも町の鍛冶屋さんを続けていきたいです。